



瀬戸内三原  
築城**450**年事業

第1章 事業概要



## 瀬戸内三原 築城450年事業の基本事項と基本方針

### (1) 基本事項

#### 【名称】瀬戸内三原 築城450年事業

##### ■ 名称について

今回の事業の基本コンセプトをひと言で表現したもので、永禄10(1567)年の小早川隆景公による三原城築城を起点とする450年の節目の平成29(2017)年に向け、これまでの歩みによって築かれたさまざまな資源に光を当て、三原内外に発信していくことを表しています。

##### ■ 「瀬戸内」を冠すること

「瀬戸内」は、観光資源としても注目を集めており、三原市が、眺望や自然環境、食、交通至便な地理などさまざまな恵みを楽しんでいることを伝えるため、これを冠することとします。「瀬戸内に位置する三原」をより明らかにするため、「三原」と「築城」の間にスペースを設けます。

##### ■ 「450年」という数字が入っている意味

「450年」は、単なる時間の長さではなく、三原がこれまで培ってきた歴史と文化を長い歳月によって表現したものであり、三原城築城以前から今日に至るまでの、時が磨いた魅力をイメージさせるために用います。

##### ■ 実施主体と実施期間

実施主体：瀬戸内三原 築城450年事業推進協議会

実施期間：平成26年11月～29年12月(メイン期間：平成29年2月～11月)

### (2) 基本方針

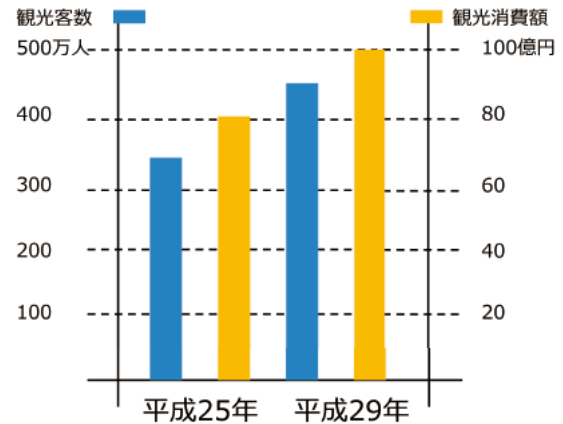
#### 【目的】観光が、三原市を支える産業の柱のひとつとなる。 「観光のまち、三原」の実現

##### ■ ポイント

- ・市民全員がふるさと三原の魅力を再認識し、協働の取り組みやおもてなしの充実、観光産業を発展させます。
- ・先人が残した歴史的・文化的遺産を前面に押し出して観光客を呼び込み、「三原のブランド化」を図ります。
- ・広島県内・近隣県での認知度向上をめざし、観光消費額の増加を図り、多くの観光客を呼ぶ基盤をつくります。

## 【目標】

- 平成29年の観光客数  
450万人をめざします。  
(平成25年は338万人→33% UP)
- 平成29年の観光消費額  
100億円をめざします。  
(平成25年は80億円→25% UP)



## 【事業の進め方】

大きく以下、4つの事業を展開します。

- 主催事業 推進協議会の事業費で実施するもの。
- 連携事業 他の実行委員会等が実施する事業・イベントと連携し、力を合わせて実施するもの。
- 市民活動事業 市民が主体・自主的に実施し、活躍できる事業で、支援、協力を行うもの。
- 三原市事業 450年事業に関連して、三原市が実施するもの。
- その他事業 その他450年事業の一環として情報発信が可能なもの。

## 【事業実施の区分】

- 市民向け～ふるさと三原の魅力を知る・好きになる事業  
市民全員が、三原の自然、歴史・文化、食等の観光資源の魅力を知り、自慢したくなるほど好きになることをめざします。
- 観光客向け～観光のまちを市民がつくる事業  
市民も楽しみつつおもてなしやイベントを開催し、多くの観光客に来て楽しんでもらえる“観光のまち”をめざします。
- 市外向け～三原の魅力を市外に向けて発信する事業  
魅力あふれる三原を市外の人たちに知ってもらい、来てもらうことをめざします。



## 瀬戸内三原 築城450年事業の基本計画実行指針

「観光のまち、三原」  
の実現のために

「三原の光を観よう、魅せよう」

永禄10(1567)年、小早川隆景公は、新たな時代の到来を見越し、浮城と呼ばれた三原城を築いて拠点を移し、三原の繁栄の礎としました。以来450年、三原はさまざまな人たちによって、守り、伝えられてきました。少子高齢化が進む三原を次代に変わらず伝えていくため、三原を観光のまちにしていきます。

「観光のまち」とは、主要産業である「ものづくり」に並んで、観光が三原を支える柱のひとつとなるということと、市民が三原の魅力を「観る」ことで、ふるさと三原の魅力を理解することの両方を意味しています。

450年は節目ではありますが、ゴールではありません。行政だけでなく、協議会参加の団体にとどまらず、市民をはじめ、広く参加を募り、それぞれが得意分野を活かし、一過性のものとならないよう取り組みを進めます。この機会に、さまざまな観光基盤の整備に取り組んだうえで観光資源を開発し、外国人誘客も視野に入れて情報発信に取り組みます。

### a.三原の歴史や文化を観よう、 魅せよう

三原には、さまざまな歴史や文化に関する資源があります。築城450年を契機に、古くは古墳時代から現代に至るまで、時が磨いたさまざまな観光資源に光を当て、市民が観るとともに、観光客に魅せていきます。

### b.瀬戸内三原を観よう、 魅せよう

三原が瀬戸内から受けている恵みは計り知れないものがあります。瀬戸内が注目される今、まずは市外に、そしてゆくゆくは全国、そして世界へ、瀬戸内三原の魅力の発信を始める必要があります。三原の内陸部においても、瀬戸内と一体の里山エリアとして光を当て市民が観るとともに、観光客に魅せていきます。

### c.三原の”ひと“を観よう、 魅せよう

“ひと”は三原の財産です。わが国における観光が単なる物見遊山から体験型にシフトしている中、おもてなしや観光資源づくりに地域のひとの魅力は重要な要素となっています。しまのわ2014で芽吹いた市民による観光のまちづくりをさらに推し進め、三原のひとの手による観光資源に光を当てていきます。

### ①三原の礎を築いた小早川隆景公の残した魅力

小早川隆景公は、兄吉川元春公とともに毛利を支え、また、豊臣政権の五大老として戦国末期の日本に大きな影響を与えました。また、新高山城、三原城を築き、三原繁栄の礎を築いた人物でもあります。歴史ファンからの評価も高い小早川隆景公と三原に残した財産に光を当てていきます。

### ②殖産興業から高度経済成長期を支えた三原の魅力

明治以降の三原の歩みは、まさに日本の殖産興業の歴史の歩みの見本でもあります。山陽鉄道開通から120年余り、山陽新幹線の開通から40年余り、高度経済成長を支えた三原沖の埋め立てによる大規模工場の立地から、西部地区への新たな工業団地の造成などの歴史、その中で培われた文化や生活のさまざまな財産に光を当てていきます。

### ③古く・長く・幅広い。三原の歴史や文化の魅力

三原の歴史や文化に関する資源は、小早川隆景公によるものだけではなくありません。御調八幡宮の創建や土肥実平公の影響によるもののほか、江戸時代の福島・浅野氏によるさまざまな歴史遺産が残されています。梨羽城や久井稲生神社、棲眞寺など市内全域の歴史・文化遺産が対象で、また、スポーツをはじめとする三原のさまざまな文化についての魅力に光を当てていきます。



▲440年以上の伝統を持つやっさ踊り

### ①三原のまちの魅力

城下町三原に残る寺社仏閣、古い町家、平成29年に完成をめざす城跡周辺整備、市民有志による城下町の魅力づくり活動に加え、観光看板の整備など、まちの魅力を高め、光を当てていきます。

### ②三原の食(ごちそう)の魅力

広島県内では定着した「タコのまち、三原」の評価に加え、注目されているスイーツをはじめとする三原の食(ごちそう)の魅力に光を当てていきます。また、多彩な魅力をもつ食材のブランド化を通じ、三原のブランド力を高めます。

### ③三原の眺望の魅力

新藤兼人監督に選ばれた映画の舞台でもある三原は、瀬戸内の絶景や、佛通寺、三景園、佐木島など、四季折々の美しい景色に満ちています。それらの魅力に光を当てていきます。



▲三原で獲れるマダコ



▲筆影山からの眺望

### ①市民に三原の魅力を伝達

まずは市民が三原のファンになり、市外の人たちに自慢できるようになるための情報を市民に届けます。

### ②市民による観光の魅力創り活動を応援

市民による観光の魅力創り活動を応援できる体制を整え、専門家のアドバイスを求める仕組みを作りサポートします。幟やステッカーなどオリジナルのノベルティを作成し、活動に使用できるようにします。

### ③市民の活動を発信

活躍する人を紹介したり、個々のイベントや事業をテレビ、雑誌、パンフレットなどで大きく発信して一緒に誘客を図ります。450年事業の関連グッズをつくれる事業者を募集し、一緒に広く情報発信を行います。



▲さざしまを愛するボランティアガイド



## 瀬戸内三原 築城450年事業に係る体制(協議会・幹事会・部会)

平成29年11月現在

### 瀬戸内三原 築城450年事業推進協議会

#### 協議会(14団体)

三原市	三原市社会福祉協議会	三原市PTA連合会
三原市教育委員会	(一社)三原青年会議所	西日本旅客鉄道(株)三原地域鉄道部
(一社)三原観光協会	広島経済同友会三原支部	広島県観光課
三原商工会議所	三原市文化協会	(一社)広島県観光連盟
三原臨空商工会	みはらウィメンズネットワーク	

#### 幹事会(14団体)

三原市(経済部, 総務企画部)	三原市社会福祉協議会	NPO法人 みはらまちづくり兎っ兎
三原市教育委員会	(一社)三原青年会議所	広島県観光課
(一社)三原観光協会	広島経済同友会三原支部	(一社)広島県観光連盟
三原商工会議所	三原市芸術文化センターポポロ	三原市文化協会
三原臨空商工会	NPO法人 ちゃんくす	

協議会事務局…観光課築城450年事業推進担当室

#### 部会

##### ☆ 総務・企画部会(3団体)

協議会事務, 協議会イベントの企画調整, 市本部との調整等  
 ■構成団体 P76参照

##### ☆ 広報部会(7団体)

パブリシティ活動, 広告・宣伝, 情報発信, プロモーション等  
 ■構成団体 P76参照

##### ☆ 誘客促進部会(11団体)

特産品の開発・商品化, 旅行商品の開発・商品化, 販売促進等  
 ■構成団体 P76参照

##### ☆ 歴史・文化事業部会(22団体)

三原の歴史や文化に関する顕彰事業  
 ■構成団体 P76参照

※部会は, 協議会規約第9条第1項の規定により, 必要に応じて設置。

瀬戸内三原 築城450年事業に係る運営体制(庁内組織)

瀬戸内三原 築城450年事業推進本部

推進本部

本部長	担当副市長	本部員	参事(観光振興担当)
副本部長	副市長	本部員	参事 (築城450年事業推進担当)
副本部長	教育長	本部員	参事(農業振興担当)
本部員	総務企画部長	本部員	建設部長
本部員	経営企画担当部長	本部員	都市部長
本部員	財務部長	本部員	教育部長
本部員	保健福祉部長	本部員	消防長
本部員	生活環境部長	本部員	水道部長
本部員	経済部長		

事務局・観光課築城450年事業推進担当室

調整会議(16課)

承認・調整指示

集約・提案

関係機関等

三原市庁議等に関する規程(平成17年三原市訓令第6号)第7条第2項に規定する幹事課長

総務企画部 総務広報課, 本郷支所, 久井支所, 大和支所

財務部 財政課

保健福祉部 社会福祉課

生活環境部 生活環境課

経済部 農林水産課

建設部 土木管理課

都市部 下水道整備課

教育部 教育振興課

消防本部 総務課

水道部 管理課

総務企画部 経営企画課

総務企画部 地域調整課

教育部 文化課

関係課等

事業提案

関係機関等

三原商工会議所 三原臨空商工会  
(一社)三原観光協会 (一社)三原青年会議所  
三原市文化協会 NPO法人 市民活動団体  
各地域等

連絡・調整

関係課

市主催事業の検討, 実施  
連携事業の推進  
市民協働事業の推進  
関係機関との連携・調整等

## 記念事業ロゴマークと懸垂幕

当事業のロゴは、課題解決のアプローチとしてのワークショップで、参加者から抽出したアイデアを基に考案しました。

### ■ロゴについて

“浮城(うきしろ)”三原城の石垣と瀬戸内海の多島美をモチーフにデザインしました。

中央の白線は「白波」と「新しい風」をイメージし、上下の大きな2つのまとまりは「市民」と「推進協議会をはじめとする関係者」との協働を意味します。

また、本事業のシンボルの1つである三原城跡には、隠し文字で「三原城」をあしらい、今なお残る歴史の重みと、人々とのつながりを表現しました。

### ■使用例

市庁舎の懸垂幕・駅前市民広場・三原駅構内改札前の横断幕などに使用しました。

横断幕



瀬戸内三原 築城450年

平成29年に三原城は築城450年を迎えます

ロゴマーク



瀬戸内三原  
築城450年事業

懸垂幕



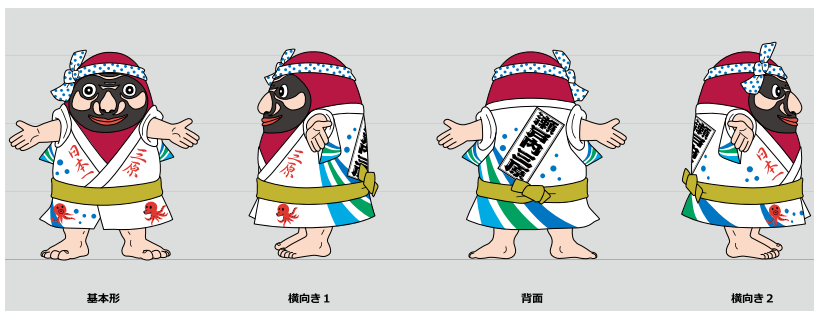
瀬戸内三原 築城450年  
平成29年に三原城は築城450年を迎えます

## 三原市マスコットキャラクター

### ■経緯

マスコットキャラクターは、ホームページ、雑誌、メール広告、チラシ等によって公募(プロ・アマ問わず)しました。その結果、総数1017点の応募の中から選んだ8作品について、インターネットなどによる一般投票を行い、推進協議会に設置した選考委員会で決定しました。

### ■キャラクターのイメージビジュアル



基本形

横向き 1

背面

横向き 2

### ■最優秀作品の紹介

名前：やっさだるマン

三原市といえば、“やっさ祭り”と“神明市”を連想します。

やっさ踊りを踊る日本一の大だるまをイメージして描きました。

(※応募者の制作意図から抜粋)

※画像はマスコットキャラクター着ぐるみの、完成のイメージです。

## 瀬戸内三原 築城450年事業キャッチフレーズ

「きてみて三原! 石の上にも450年」

450年経った今も美しい石垣が残る小早川隆景公が築いた三原城を三原へ来て観て(魅て)という思いが込められています。

応募総数927点の中から選ばれ、瀬戸内三原 築城450年事業の周知・PR活動などで使用しました。



## 築城450年事業の成果

### (1) 観光元年

- ①本事業は、平成25年の観光戦略プラン策定後の、最も重要な事業と位置づけ、メイン期間の平成29年は「三原観光元年」として、官民が一体となった推進協議会を設置するとともに、観光推進事業を実施し、成功裏に終えることができました。
- ②事業の波及効果を最大限に活かし、平成30年度以降もさらなる観光振興に取り組み、交流人口の拡大を図ろうという意識醸成につながるなど大きな意義がありました。

### (2) 経済面

- ①事業実施に向け数値目標として観光客数450万人、観光消費額100億円を掲げ、その数値目標の実現に向けて観光誘客事業等に取り組み、築城450年事業基本計画策定時の平成26年と平成27年比で、それぞれ増加傾向にあり、目標値を達成する見込みです。

	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年
観光客数(人)	3,222,801	3,545,915	3,776,915	—
観光消費額(千円)	6,892,912	8,292,203	8,630,144	—

※平成29年の数値は平成30年夏頃に公表される予定

- ②三原の魅力である食においては、「三原食」のブランド化の推進により、市内の店舗・事業所の経済効果は上向くとともに、ラビットラインの就航による新たな観光ルートの確立ができたことで、平成29年についても、観光客数及び観光消費額の増加が見込まれます。

### (3) 文化面

- ①講演会やお茶会などの文化事業の開催、市事業の企画展開催、みはら歴史館運営等により、郷土三原の歴史、文化について再認識する機会を提供しました。
- ②みはら歴史館は、ペアシティ三原西館1階に位置することから、多くの来館者がありました。

みはら歴史館来場者数(平成28年11月5日開館)

	平成28年12月末	平成29年3月末	平成29年6月末	平成29年9月末	平成29年11月末
来場者数	2,855人	23,782人	33,005人	45,100人	52,227人

※1万人達成：平成29年1月15日 4万5千人達成：平成29年9月30日

- ③本事業を通じて小早川家との縁が生まれ、小早川家に伝わる新たな歴史史料が発見され公開につながりました。
- ④築城450年を記念し、市民参加によるオール三原ロケ映画「やっさだるマン」が制作され、上映されることで、三原市の知名度向上、交流人口拡大が見込まれます。

#### (4) 市民協働のまちづくり

- ①市はもちろん商工会議所，観光協会などの各種団体，さらには，県，県観光連盟とも協働して事業に取り組むことができました。
- ②三原市民の「地域の宝を磨こう」という機運が高まり，チャレンジ事業などの実施により，市民活動団体による既存の活動の拡充や新たな取り組みの契機となり，地域の活性化につながりました。
- ③三原城跡歴史公園の整備に併せた濠のかいぼりやブランド鯉放流等により，市民協働による新たな観光名所の創出につながりました。
- ④みはらWE フェス事業等により，週末の駅前のにぎわいづくりの場が提供できました。

#### (5) 広域連携

- ①事業推進の過程の中で，全国的に知名度のある「三矢の訓」にちなむ連携協定を県知事立会いのもとで締結できたことで，安芸高田市，北広島町とのつながりが強化され，お城EXPOへの出展や共通グッズの制作等共同プロモーションを実施しました。なお，連携協定に基づく事業は，三原市においても実施しました。
- ②戦国期等の歴史の一部を共有する湯河原町や竹原市，福岡市，宗像市等との結びつきを相互に再認識しました。
- ③雪舟サミットを通じてゆかりの市との交流，情報交換，画聖雪舟を活かした今後の文化振興に向けた目的意識の共有が図られました。

#### (6) 市議会

市議会において「歴史と文化を大切にしたまちづくりを推進する都市三原」宣言が採択され，三原の歴史，文化，伝統の継承を図り，それらと調和したまちづくりを推進することが決議されました。

#### (7) 市民の将来へのまちづくり意識の醸成

- ①築城400年時と比較し，築城450年事業では「歴史が磨いたまち三原」という市民意識が高まり，ブランドデザイン等の将来のまちづくりを考える機運が醸成されました。
- ②50年後の築城500年に向け，未来を担う子どもたちによる未来宣言や7千人を超える市内の小・中学生による「50年後に残そう私たちの未来へ」のメッセージの実施等により，まちづくり意識，ふるさと意識醸成の契機となりました。

#### (8) 瀬戸内三原 築城450年事業の検証

瀬戸内三原 築城450年事業の検証については，別途，瀬戸内三原 築城450年事業推進協議会が取りまとめます。



## 「歴史と文化を大切にしたまちづくりを 推進する都市みはら」宣言

「瀬戸内三原 築城450年事業」は、あらためて郷土の歴史、文化、伝統に目を向けるきっかけとなった。

私たちのまち三原には、先人たちが築いてきた史跡や社寺、古墳などを初めとした文化遺産が数多く存在する。

また、城下町の往時をしのばせる歴史的町並みや古い建築物などの歴史的資産が今もなお地域に息づき、郷土の魅力としてその光を放っている。

私たちは、それらを市民共有の財産であると再認識し、古きものを尊び大切にしていゆき心と心を育むとともに、後世に引き継いでいかなばならない。

このような認識のもと三原市議会は、ふるさと三原の歴史、文化、伝統の継承を図るとともに、それらと調和したまちづくりを推進していくことを決意し、ここに「歴史と文化を大切にしたまちづくりを推進する都市みはら」を宣言する

平成29年3月16日  
三原市議会

## 未来宣言

平成29年、2017年、築城450年を迎えた三原には  
たくさんの宝がある  
伝統ある祭りや文化  
穏やかな海と緑深い山  
多様な動植物がすむ豊かな自然  
恵まれた交通網や世界とつながる空港  
そして、こころ優しい人々

私たちはふるさと三原が大好きだ  
これからも人と人との交流を大切にし  
ふるさとの宝を守り、さらに輝かせたい

そのために何ができるか考え、行動しよう  
伝統文化を受け継ぐ  
豊かな自然を守る  
三原の良さを発信する  
人への思いやりを育む

50年後の築城500年  
三原に暮らす人々はもちろん  
訪れる誰もが笑顔になれる三原をめざして  
共に行動していくことをここに宣言する

平成29(2017)年11月5日  
三原市公立中学校生徒会連合会  
瀬戸内三原 築城450年事業推進協議会

